

優秀賞

# 百メートルのめぐりがわり

静岡県 沼津市立今沢中学校一年 村上葉月

私の通学路は家の前の道を進み、左に曲がれば大通り。そこまで出れば一緒に通学する友達が見えます。

朝、起きてから学校に着くまでの間に私はたくさんの人と言葉を交わします。起きれば母がいて、しばらくすると姉が起きてきます。玄関を出ればとなりに住む祖母がほうきで庭をはいています。家族の見送りを受けて、いよいよ家の前の道に出ます。

道を出てすぐ、前の家のおじさんと頭をさげ合います。隣の家のおじさんは金魚ばちの掃除をしながら声をかけてくれます。奥の家の窓から三才くらいの女の子がこっちを見ているので口元を大きく動かしておはようを伝えます。その前の家のおばさんは足が不自由で言葉がゆっくりなので、おばさんのおはようを聞いてから私もあいさつをします。おじさんもタバコを吸いながら手を振ってくれます。なな

ると同じ道が違う道のように感じます。みんな平等に年を取るので私が成長すれば、おじさんやおばさんも同じだけ年を取ります。おじさんおばさんが、おじいさんおばあさんになれば、悲しいけれどもいなくなってしまう事もあります。

少しさみしくなった道ですが、それでも私はこの道を通ります。

この道は嫌なことがあって、私が下を向いてしまいうような時も前を向かせてくれます。おじさんおばさんは私の変化に敏感で、どうにか笑顔にしようとしてくれます。下なんて向かせてくれません。近所の人から家族のように大切にしてもらっていることを小さい時からしっかり感じていました。

だから私はおはようのあいさつにありがたさの気持ちを含めて、今まで以上に大きな声で大きなあいさつをしながら感謝いっぱい百メートルを進もうと思います。

小さくなったおじさんおばさんの声を私がカバーして、百メートルにたくさんさんのパワーをふりまきながら、今日も元気に中学校へ向かうのです。



め前の家のおばさんはお花の手入れが大好きで、時々学校に花を持たせてくれます。天気が良ければおじさんもウォーキングに行く前の準備体操をしながら、その日の天気を教えてくれます。曲がり角のおじさんはゴミ捨て係のようで多い時には週三回、「行ってらっしゃい。おじさんも行ってくるよ。」と、ゴミ袋を見せて笑わせてくれます。

たくさんのおじさんおばさんに見送られながら幼稚園にも、この道からバスで通いました。ボール投げやなわとび、自転車の練習もここでしました。どこに行くにも何をすることも、この道は私のスタートラインです。

しかし、数年の間にタバコのおじさんとお花のおばさんが亡くなってしまい、他のおじさんおばさんも声が小さくなりました。

いた人がいなくなったり、聞いていた声がない